

平成20年度

研究だより

南部小学校

H20.10.17

No. 6

<兼 子>

第6回授業研究会（10月15日）ご苦労様でした。

3の2・算数科・「直角をつくって、見つけて、形名人になろう」

横山紀子先生の授業から学ぶ



<成 果>

【仮説1について】

- ・導入に正方形を作るという実際に操作する活動を取り入れたことにより、よい雰囲気の中で授業を進めることができ、見通しを持ちながら自力解決へ入れたのではないだろうか。
- ・角にシールを貼り作業の手順を理解させるとともに、自作の用具である折り紙で作った「直角くん」を使って確かめさせたことで、興味を持ち角に注目しながら作業に取り組みさせることができたのではないだろうか。
- ・前時までの長方形を振り返り、正方形と比べながら視点を与えて表にまとめさせたことで、明確に調べさせることができたのではないだろうか。

【仮説2について】

- ・練習問題を通して友達同士のつまづきが見え、近くの人と実際に紙を折って説明してあげたり、お互いに聞きあったりしながら交流することができたのではないだろうか。

<課 題>

- ・子どもが折って切った形が正確でないという心配から、教師が準備したものを使っているということで、きれいに切れなかった子が安心した反面、自分がせっかく作ったものが活かされない。体験させたいのか、正確に測らせたいのか、ねらいをしっかりとをもって指導する必要があったのではないか。
- ・調べるための必要感をもたせるために、例えば紙鉄砲を提示し興味を持たせ、開いてみると正方形（前時とは違った形）で、前時の長方形とは違った形の秘密を調べようということで、児童自ら調べてみたいという思いをもたせることが大切だったのではないだろうか。
- ・「たてに折る」「簡単」「すげっ、あった」「おれ、ちょうどだ」などの子どもの気づきの発言を生かし、子どもたち同士の学び合いにつなげていくような授業展開の工夫が必要

だったのではないだろうか。

- ・「ここここ」ではなく、自分の正方形の辺に番号などの記号（印）を付けると、話し合いにつなげるという意味でも、子どもたちが説明しやすかったのではないだろうか。

5の2・算数科・「稲刈り競争 どちらのほうがたくさん刈り取ったかな？」



軽部暁美先生の授業から学ぶ

<成果>

【仮説1について】

- ・「稲刈り競争・・・」ということで単元をつらぬいた設定をし、掲示したものに解決したものが分かるようにしていた。また、算数では既習事項を使って考えていくということを意識させることができていたのではないだろうか。
- ・簡単な復習プリントから導入することにより、既習事項の整理ができたとともに、本時への見通しがもて自力解決に生かされたのではないだろうか。
- ・長方形を変形し平行四辺形になったら面積は同じかという問いにより、「あれっ、同じかな。」という問いが生まれ調べてみたいという思いにつながったのではないだろうか。
- ・平行四辺形の面積の公式にまとめる際も、三角形の面積で学習したことを思い出し、「底辺×高さ」だったからという言葉が子どもから出てきたことは素晴らしい。

【仮説2について】

- ・自力解決と交流の時間を十分に保障したことで、多様な考えの中で子ども同士の自然な関わりが生まれたのではないだろうか。
- ・教師の巡回指導により、「分からなくなったんだけど、どうするか教えて。」と関わりをもたせるようにしていた。
- ・自力解決の後の交流により、友だちの考えがヒントになったり他の考え方に触れたりすることが、安心感を与え考えを広げ、主体的な学びにつながったのではないだろうか。
- ・集中して話を聴き、図を使いながら自分の言葉で説明できる力が育ってきている。関わり合いに生かされてきているのではないだろうか。
- ・T2の関わりが明確で、理解後作業の進み具合も確かめていた。

<課題>

- ・長方形の面積はたて×横であるのに対し、平行四辺形では底辺（横）×高さ（たて）ということに子どもの思考の指導の難しさがある。底辺がわかって高さが決まるということをいかに理解させるかが大切ではないだろうか。
- ・等積変形で長方形にしたときの底辺と高さは理解しているが、等積変形前の平行四辺形のどこどこ（底辺と高さの垂直関係）にあたるかを確認する必要があるのではないか。
- ・多様な求め方の中から、公式（一般化）するのに、自分以外の考えも理解し一般化していくことが難しいと感じた。算数のよさ（より簡単に）をいかに理解させていくか。
- ・学び合いをさせるためにはWhat型の発問を考えていく必要があるのではないだろうか。